

輪島塗の若手人材の養成施設の整備等に関する基本構想策定支援業務委託

基礎資料

知事年頭記者会見

(令和7年1月6日)

資料 (該当部分抜粋)

輪島塗の創造的復興に向けた官・民・産地共同プロジェクト ～次代を担う若手人材育成・輪島塗を国内外に発信～



輪島塗の現状

- 我が国を代表する伝統的工芸品であり、能登の重要な地場産業である輪島塗は、能登半島地震に加え、奥能登豪雨の二重災害により甚大な被害
- 組合によれば、特に若い世代の作り手が将来に不安を感じ、輪島から離れることを考えている者が多く、このままでは、輪島塗産地が消滅することが危惧
- 近年、輪島塗事業者（塗師屋）においては、若手の作り手を育成する余裕がなくなっている（いわゆる「年季」という修業を行う塗師屋はごくわずか）

プロジェクトの目的

官民と産地が共同して、輪島塗を支える若手人材を育成することで
若者を呼び込み、さらには、国内はもとより、**海外に輪島塗を発信！**
輪島塗の新たな世界を切り拓く

→これまで、石川県、輪島市、経済産業省、輪島漆器商工業協同組合など輪島塗事業者、北國新聞社、読売新聞社、日本政策投資銀行からなるWGで検討

輪島塗の創造的復興に向けた官・民・産地共同プロジェクト ～次代を担う若手人材育成・輪島塗を国内外に発信～



プロジェクトの方向性① 輪島塗の若手人材の養成施設の創設を検討

- 対象者：年5人程度、概ね40歳以下の若者（養成期間は2年）を想定
- 技術面のみならず、現代の生活様式に合った新商品開発、海外市場の開拓ができる人材養成を想定
→全国で工芸品の新商品開発に実績のあるデザイナー、海外のバイヤーや専門家等による講義
- 施設内で、生徒による作品展示、観光客向けに工芸品の製作体験ができるワークショップ等の実施を想定
- 場所は、輪島漆芸美術館、輪島漆芸技術研修所、輪島漆器商工業協同組合の精漆工場が立地するゾーン内を想定

プロジェクトの方向性② 卒業生の雇用の促進を検討

- 養成施設の卒業生を雇う輪島塗事業者に奨励金の交付(卒業後3年間)を想定

輪島塗の創造的復興に向けた官・民・産地共同プロジェクト ～次代を担う若手人材育成・輪島塗を国内外に発信～



若手人材の養成施設の建設候補地は、輪島漆芸美術館、輪島漆芸技術研修所、輪島漆器商工業協同組合の精漆工場が立地するゾーン内を想定



輪島塗の創造的復興に向けた官・民・産地共同プロジェクト ～次代を担う若手人材育成・輪島塗を国内外に発信～



- 本プロジェクトについて、輪島塗の関係者からは、「若者の人材育成が、今こそ必要であり、このプロジェクトの推進には大賛成」との意見多数

新年度（R7）の取り組み

- これまでのWGでの検討をもとに、**基本構想策定に着手**
- 当初予算に必要経費を計上し、**構想策定委員会を設立**し、具体の検討を進めていく
→**養成施設の整備主体・規模、養成施設の名称、運営主体、運営方法、養成カリキュラム、講師陣等を検討**

官・民・産地が連携し、輪島塗の再興、能登の創造的復興につなげる

知事記者会見

(令和7年4月3日)

資料 (該当部分抜粋)

- 輪島塗の創造的復興に向けた官・民・産地共同プロジェクトは、これまでのワーキンググループで「輪島塗の若手人材の養成施設の創設」、「卒業生の雇用の促進」といった方向性が示された。
→ワーキンググループ：石川県、輪島市、経済産業省、輪島漆器商工業協同組合など輪島塗関係者、北國新聞社、読売新聞社、日本政策投資銀行
- 具体の検討を進めるため、基本構想策定委員会を立ち上げ、施設の整備主体や規模、運営方法等を基本構想として取りまとめる。

委員（10名）

※敬称略・五十音順

伝統産業振興室
076(225)1526

青柳 正規（石川県立美術館長）	坂口 茂（輪島市長）
太田 充（日本政策投資銀行代表取締役会長）	馳 浩（石川県知事）
菊川 人吾（経済産業省イノベーション・環境局長）	日南 尚之（輪島漆器商工業協同組合理事長）
小中 寿一郎（北國新聞社代表取締役社長）	森田 正信（文化庁次長）
小森 邦衛（輪島漆芸技術研修所長）	山口 寿一（読売新聞グループ本社代表取締役社長）

今後の予定

- ・ 4月10日(木) 第1回基本構想策定委員会の開催
- ・ 令和7年度内 基本構想を策定

ところ：輪島漆芸美術館
議題：①伝統的工芸品産業の現状
②プロジェクトの目的・方向性等
③養成施設の整備や運営主体等

➡プロジェクトが能登の復興の象徴となるよう、官・民・産地が連携し、着実に推進

第1回 輪島塗の若手人材の養成施設の

整備等に関する基本構想策定委員会

(令和7年4月10日)

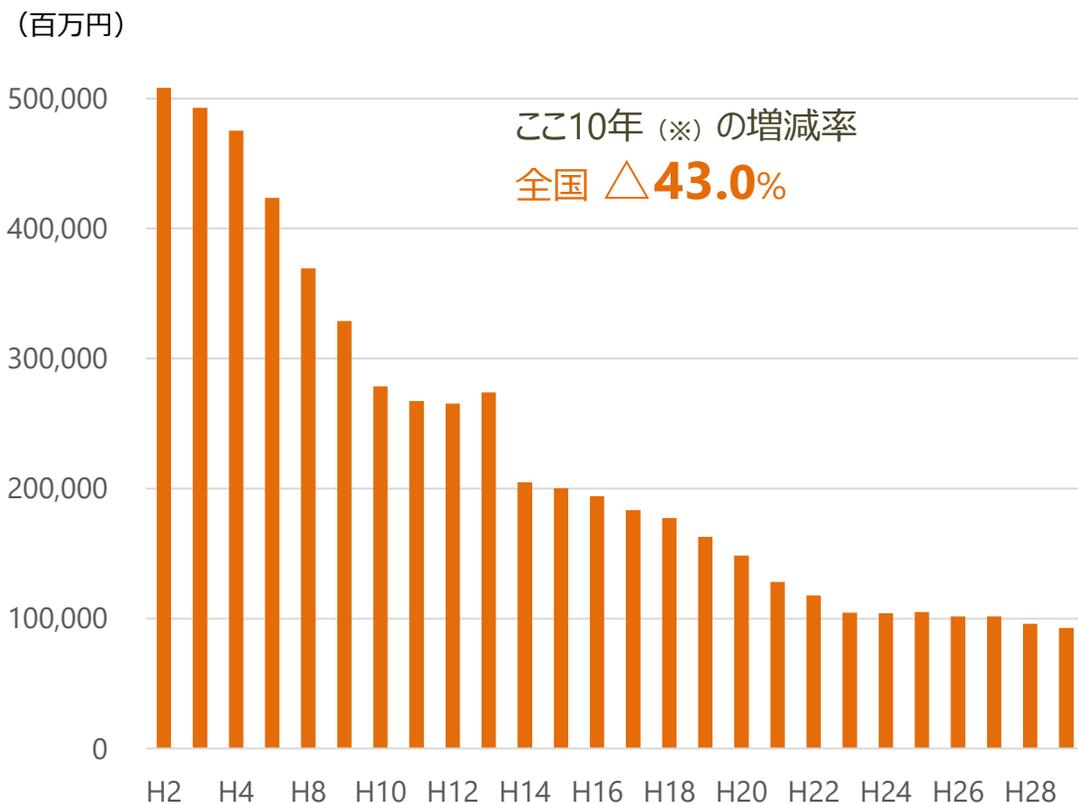
資料 (抜粋)

① 伝統的工芸品産業の現状（生産額・従事者数の推移等）について

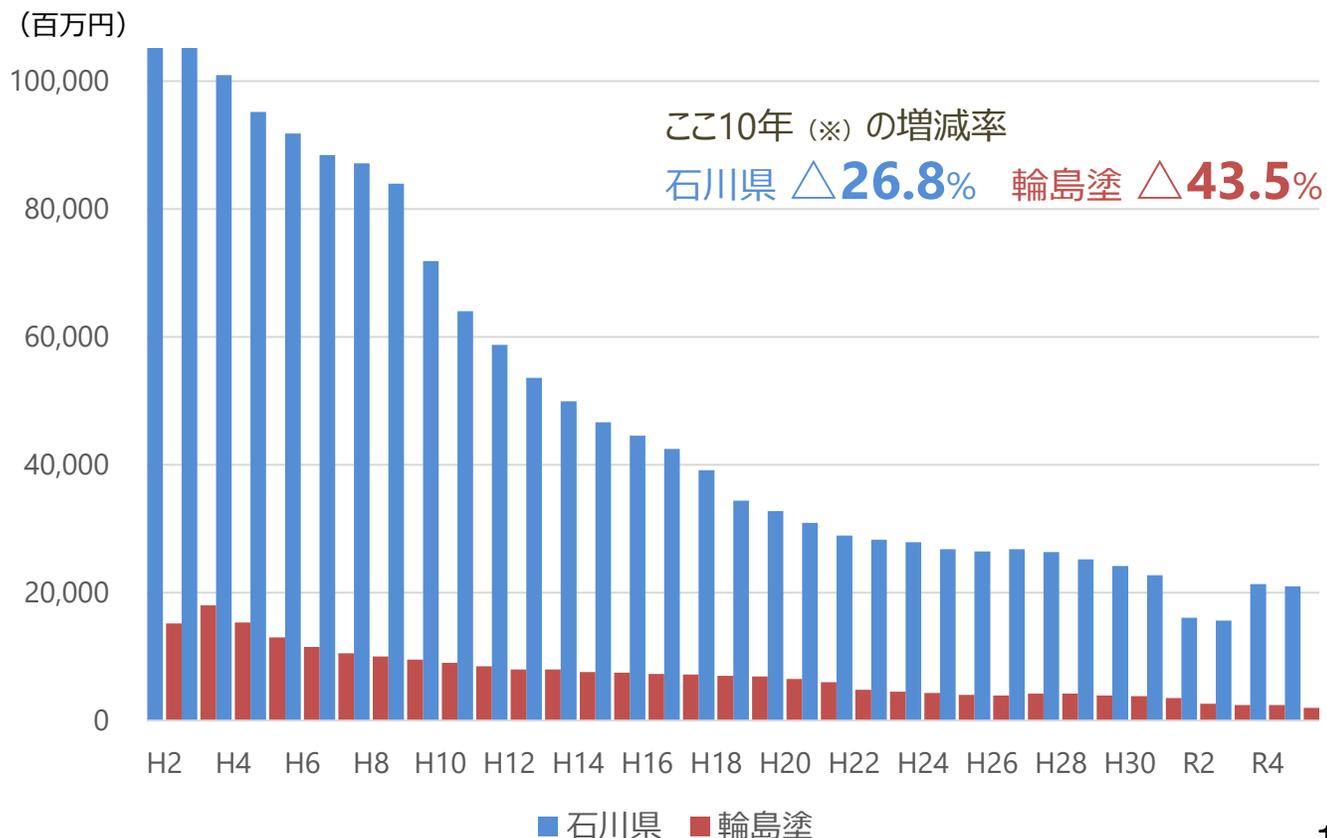
- 生活様式の変化に伴う需要の減少等により、全国の伝統的工芸品の生産額は、平成以降、減少している。
- 本県も同様、平成2年の1,067億円をピークに減少を続けている。

※「全国」の生産額が把握されているH19～H29を比較

■ 全国の伝統的工芸品の生産額の推移



■ 石川県の伝統的工芸品及び輪島塗の生産額の推移

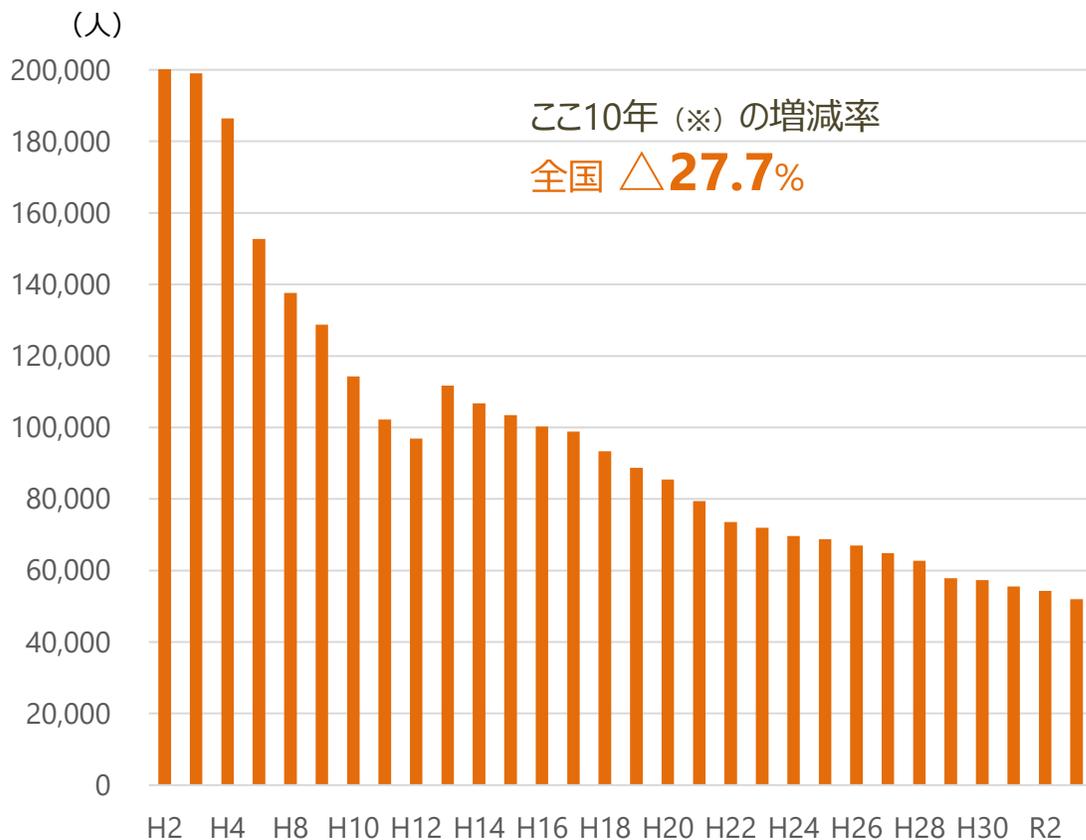


① 伝統的工芸品産業の現状（生産額・従事者数の推移等）について

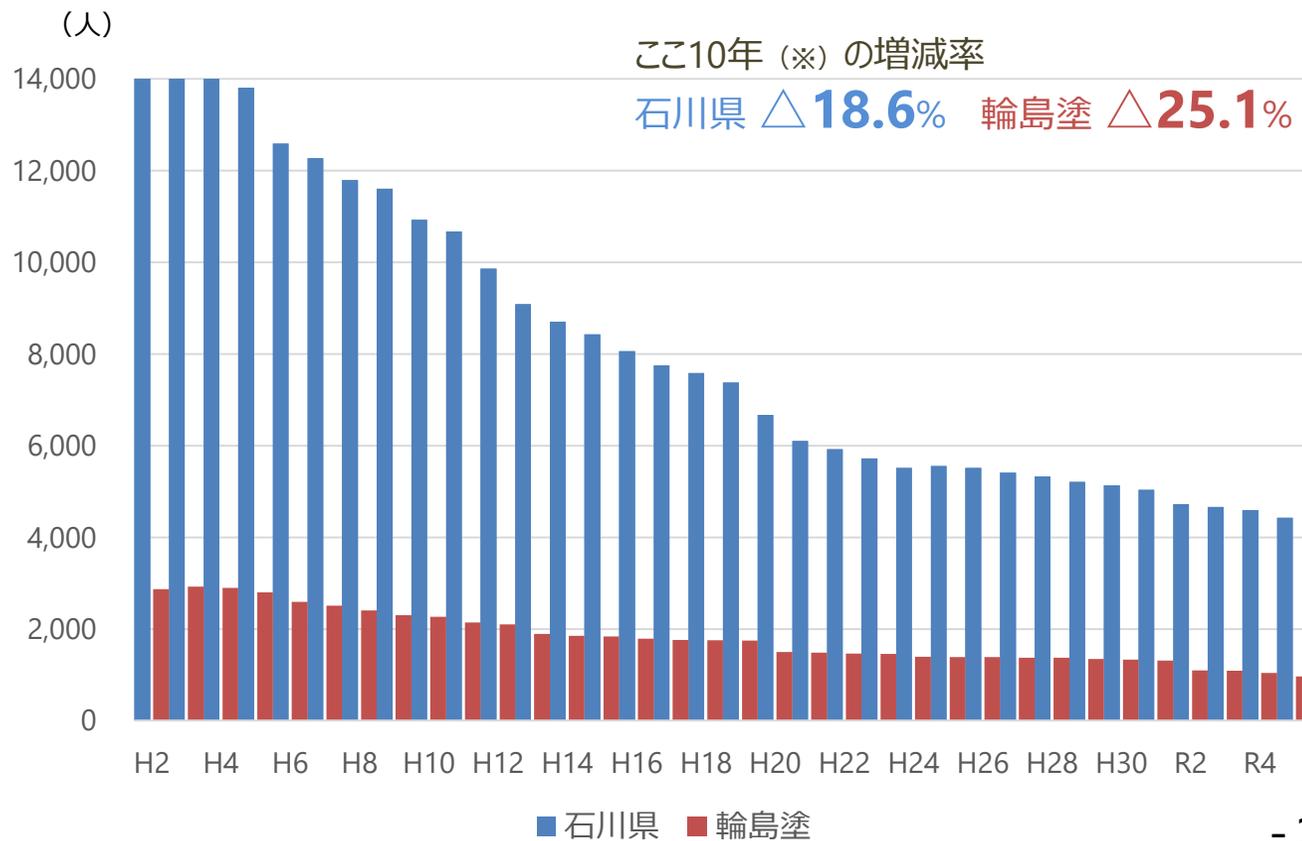
○ 生産額の減少に伴い従事者数についても減少傾向が継続している。

※「全国」の従事者数が把握されているH23～R3を比較

■ 全国の伝統的工芸品産業の従事者数の推移



■ 石川県の伝統的工芸品及び輪島塗の従事者数の推移



その他、参考資料

養成施設の機能と必要面積のイメージ

○ 施設には、①養成訓練校、②精漆工場、③地の粉工場の3つの機能

→精漆工場、地の粉工場は輪島漆器商工業協同組合が所有しており、既存施設が被災により使用できない状況となったため、養成訓練校の建設に合わせて新たに整備できないか検討

機能		必要面積 ※概算
養成訓練校	作業室 (50㎡×4 (下地・研磨・加飾・予備))	200㎡
	作業室 (100㎡×1 (上塗り))	100㎡
	講義室 (50㎡×2)	100㎡
	談話室 (応接室)	50㎡
	倉庫 (50㎡×2)	100㎡
	事務室	50㎡
	展示・プレゼン室 (30㎡×2室)	60㎡
精漆工場	漆の精製・貯蔵等	300㎡
地の粉工場	地の粉の乾燥等	300㎡
共用部分	玄関・ホール・廊下・トイレ 等	740㎡
計		2,000㎡

※あくまでイメージであり、詳細は基本構想の中で検討